

平成27年5月18日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

小 森 貴

エボラ出血熱への感染があり得る患者の発生について

昨日（5月17日）、福岡県内において、西アフリカ滞在歴があり、帰国後に発熱の症状を呈した患者が確認され、厚生労働省よりプレスリリースされましたので取り急ぎ情報提供いたします。

当該男性本人によればエボラ出血熱の患者とは直接接触はなかったということですが、5月9日の帰国後、検疫所において毎日2度の検温などの健康監視を行っておりました。

現在は、エボラ出血熱への感染の有無を確認するため、患者は福岡県の医療機関に入院しており、患者の検体は国立感染症研究所（村山庁舎）で検査を行い、検査結果は本日夕方に判明する見込みとしています。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会、関係医療機関等に対する周知方について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、本情報は5月18日11時10分時点の情報でありますことを申し添えます。

平成 27 年 5 月 18 日

【照会先】

健康局結核感染症課

感染症情報管理室長 宮川 昭二(内線 2389)

課長補佐 中谷祐貴子(内線 2373)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2257

報道関係者 各位

エボラ出血熱への感染があり得る患者の発生について

昨日、福岡県内において、西アフリカ滞在歴があり、帰国後に発熱の症状を呈した患者が確認されました。

この方については、5月9日の帰国後、検疫所において毎日2度の検温などの健康監視を行ってきました。

エボラ出血熱への感染の有無を確認するため、患者は既に福岡県の医療機関に入院済みであり、患者の検体を国立感染症研究所(村山庁舎)に向けて搬送予定です。

概要

- ①年代： 40 代
- ②性別： 男性
- ③国籍： 日本
- ④滞在国： ギニアに滞在(5月4日まで)、5月9日に帰国。
- ⑤症状： 5月18日午前3時に、頭痛、背中痛み、38.6度まで発熱。
- ⑥接触歴： 本人からの報告によればエボラ出血熱患者との接触はない。
- ⑦居住都道府県： 福岡県
- ⑧入院先医療機関の所在都道府県： 福岡県

国民の皆様へのメッセージ

- 疑似症患者は、まだ感染は確認されておらず、検査の結果、陰性となることも十分にあり得ます。
- エボラ出血熱は、発症段階で初めて感染力を持つとされています。そのため、本患者が搭乗していた飛行機に同乗していた乗客の感染リスクは極めて低いと考えられます。

平成 27 年5月 18 日

【照会先】

健康局結核感染症課

感染症情報管理室長 宮川 昭二(内線 2389)

課長補佐 中谷祐貴子(内線 2373)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2257

報道関係者 各位

エボラ出血熱への感染があり得る患者の 検体の状況について

昨日、ギニアから入国後に発熱の症状を呈した患者についてお知らせしたところですが、患者の検体が本日 10 時 35 分に国立感染症研究所(村山庁舎)に到着しましたのでお知らせします。エボラ出血熱への感染の有無を確認するための検査の結果は、本日夕方に判明する見込みです。